

子 尾字 乃 别 君

次 媛 古 乃 吕

次 言 止 称 古 乃 别 君

次 柯 比 古 乃 别 君

次 肇 古 乃 别 君

次 古 乃 别 君

次 金 古 乃 古 别 君

次 内 乃 别 君 是

次 字 乃 别 君

次 吕 别 君

次 海 麻 口
次 鸡 人

次 足 日

次 足 木 子 鸡 豎

次 足 样 子

次 惠 尔 麻 口

次 智

子 卷 國 之

次 真 雄 子 國 之

次 真 女 射 之 子

次 臣 治 之 子 臣 之

次 演 之

次 角 足

次 書 成 之 子

次 負 親 八 年 十 月 四 省 符 國 君 道
口 人 等 秘 約 八 未 之 未

次 子 國 成

次 國 益 之

次 子 城 之 子 吉 慶

次 總 成

次 特 成

次 淨 庄

次 子 福 德

次 子 福 吉

次 子 真 經

次 子 法 節

次 子 月 至

次 子 姓

子 長成

子

子 麻呂

子 稻吉
次 稻持
次 稻村

子在
次 鑑
法唐乃
子 宗雄
次 海内

子 金布
次 金了

子 道 百口之
次 道 主之

次 船
後 山 人

子 春 道
次 秋 繼

子 軟 主
子 繼 左 佳

次 得 度 僧 三 德

子 完 成

子 得 度 也 僧 圓 珠
次 福 雄

本紙者三井大師寶庫ニアリ則大師在世之書也
此之本書ハ三井唐院御庫有之從法明院傳寫之
者也

天保四己年十月

寶靜

校訂和氣系圖

一此系圖以レのレをレの氏を記スル今和氣系圖とスル
め以テ買ハス圓珎和氣氏ト其上祖より此氏族を系
里圖トハ多クバリありテ圓珎ガ和氣氏有る證ハ天台
座主記云圓珎和尚謚知證大師讚岐國郡珂郡金倉郷
人和氣氏母佐伯氏空海阿闍梨姪也云云仁壽三年七
月入唐天安三年六月帰朝四十五貞觀十年六月三月座
主宣命寛平三年十月廿九日入滅七十八と見え元亨釋
書ハ圓珎和氣氏と如此稱有ル形也讚州那珂人父宅成母佐
氏佐伯氏云云とありて本國も父名も系圖と合スリ

追加

續日本後紀卷持兼和三年三月戊午外從五位下大納言明法博士讚岐公永直右少辨明法博士同姓永成等令廿八烟改公賜朝臣永直是讚岐國寒川郡人今兵部田部之外從七位上同姓全雄等二烟改永居實附右京三條二坊永直等遂祖景行天皇第十皇子神櫛命命也

皇太子之苗裔也

但し骨ハ書さるる圓玲が三井寺ニ在リ事ハはゞ免貞
觀八年五月十四日三井寺の別當ニ任シて主持の人
とある事を見たり此別本天台座主記に見えり
是レ此圓玲が三井寺ニ関する事論少なき由ありて
長等山風ニ記せるが如し

景行天皇の苗裔の和氣氏ハ姓氏録和泉皇別ニ和氣
公倭建尊之後也また三代實錄貞觀六年八月右京
人讚岐朝臣高作ムム等賜姓和氣朝臣其先出自景行
天皇皇子神櫛命也と見えありるはありるむ此
系圖の如く武國凝別皇子より出たる他書とも

此以て見あはらる

一首目出せる系圖ハ身人の子の二門ニ分ける兼統
と記せるありてその一門ハ圓玲の家兼統あり但し
ととよ末つこのハ兄弟にあはらるる記せる今兼統
圖と稱するは次ニ記せる系圖ハ元祖より支流は
とぼく記せり今本系圖と稱するはさてその本系
圖よりよみて目安く兼統圖を制作するありかく
てその兼統圖ニ字の減たるといふ多くてよきか
まを本系圖ニ合せ校て訂し補へり
一兼統圖ハ完成が第ニ宅丸を載せ完成が長子ニ廣成

和氣清左傳四十一
三十一ヨキテアリ未だ抄テ訂九例改ヘシ
系圖中各アリ赤字ハハ

次は福雄あり本系圖にて宅成の長子に圓珎次子福
 雄と載せて宅丸の名見えず今按ゆるに本系圖の首
 子系圖兼初從宅滅於圓珎所と書る宅字下の滅た
 る丸字より宅丸とありしるるすしうてその文
 義と考ふるに此系圖ハ兼初宅丸の寫して圓珎所
 へ遣せしる由を後日圓珎のみづから書かへたる
 ものと見ゆさてその本系圖にて圓珎を載て得度せ
 書て拙き書 宅丸おのの名をむ記さるるを兼統圖
 子ま形を みて圓珎の書載たるをみずして又兼統圖宅成の
 長子に廣成 次子に本系圖と同 と書るをまはえて圓
 次子に本系圖と同 と書るをまはえて圓

珎の事あるを僧名を用ひて俗名もて記せるを
 出家の旨をたてしる心あるひまごあるが如く又兼統
 圖と本系圖の首の加書れとも小同し手と見ゆるを
 圓珎の書るるるべし又本系圖ハ手のをち別人と見
 る此宅丸の書ておことなるあるはし宅成の譜に
 復得度僧仁徳と書るをとおす方むそのうに父宅成ハ
 既に僧となりて身宅丸が世を嗣て在しほせめり
 可いなる 日吉山王利生記一の卷圓珎が事を記
 せり其ハ傳説の訛りて叔父仁徳に隨ひて違へ
 りしある 利生記を文に画を如へ書るも
 のより九卷何を享和三年本院収納所の文庫に古よ

り藏とくしと奉さる由奥書して台嶺長等沙門真起
記と名題をて件の文中を考るに文永の末、建治の
ころ記さる書是も件の考の證とて示し
とこえし

- 一 古事記景行段小此大帶日子天皇之御子等所録二十
一王不入記五十九王拜八十王云々七十七王者悉別
賜國々之國造亦和氣及稻置縣主也書紀同卷に天皇
之男女前後並八十子云々七十餘子皆封國郡故當時
謂諸國之別者即其別之苗裔焉と見えし中々古事
記書紀に載らる皇子合せて二十九王紹運録に其餘
に三十八王載さる然^ス合せて六十七王乃御名見え
し此系圖に男十八王女七王合せし二十五王件の

三書の中小見えきり

- 一本系圖に載多る景行天皇の皇子たり此御名ハ古事
記日本書紀紹^運録よりして訂しそのほるる系圖中を
見合せて其例みえしを以て訂し或ハ補へたる形也
- 一 □ハ本書の字の缺損のあるる形也其中ハ字を填た
るを上より下へ依り又例よりして補へた
るあり
- 一 ■とハきりたぐひの黒きハ缺損の字の以てしる残
きりたぐひを示し■ハ字畫のさしあらずしてのみ
のよきを示さるめてるは本書を見て考ふべき目也

る一形を

一〇の中を字を填たるを本書の字の脱たると見ゆる
をよよいゆる書どとよ依り傳ふ系圖中の例よとて
て補へたるあり

一〇如此字の左、旁に小圈をつぎよるを誤字ありむる
とおとをるしとる一を也然ものし其右、旁に書る
字ハ上よいゆる書どとよ依りて訂せざるあり■の類
の左、旁るるもときよ同じ又右、旁の字下よ欵と書加
へたるハ推量して以て示すなり
一△を今按の志ありて本書よまぎれざるを免むが

ためあり

天保六年十二月廿日

伴信友記

身男

子
足
△今按本系圖身長男
口足

二
枚
夫

三
益
國

四
口
益
入
本系圖
五
弘

通

淨

高言

總

持成
四郎

淨生

刑吹
源傳

△今按刑以下六字難解蓋脫誤

三郎友足
△今按本系圖身三男
口口云云

二
弘
足

三
道
丸

宅成
廣成
宅丸
福雄

△今按廣成圖殊俗名

△今按本系圖身四男
有廣足弘廣訓通用
蓋弘足乃友足嗣子
兼統者

系圖 兼和初從宅九歌於圓珎所

經向日代宮御宇景行天皇土代三字末大足彦忍皇子合廿四柱今按當作廿五柱男十八女七

不為幾十郎讀 鮮全合也義不詳

一 子大碓皇子 身毛津君始祖

二 次小碓皇子 赤赤小童男赤赤曰倭尊 稱日大郎媛一云磨稚郎媛

三 次稚足彦尊

四 次五百城入彦皇子

五 次思之洲皇子 忍別

六 次推雅峻倭根子皇子

七 次大酢別洲皇子

次淳燹尉燹斗皇女

次淳名城皇女

次音高城入姬皇女

次麿依姬皇子女

八 次手平狹城入彦皇子

九 次吉備元彦皇子

次若木之入日皇女

十 次武國皇別皇子

次弟姬皇女

次母三宅氏磐城之別之水齒郎女

次五百野皇女

次神櫛皇子 讀政公等祖

次給背彦皇子 幡磨別祖

已上二皇五十河母兵阿媛

次武國凝別皇子 讚岐國 伊豫國 御村別祖 貞觀八年改又 阿媛

阿倍氏木味事之女 高阿媛

次日阿襲津彦皇子 阿阿媛君之始祖 向髮長大田相媛

次國乳別皇子 水沼別之始祖

次國背別皇子 亦名宮道別皇子

次豐戶別皇子 大國別之始祖

已上三皇母襲武媛

次豐國別皇子 母曰御刀媛

子水別命 又名三津別命又 子佐父 命之 又名城命

子古乃別命 子油子 乃別命

次黑彦 子尔 別君

母阿倍角 臣 女加都媛又 名留和之古 乃媛 別君

子倭倭子乃別君之 子爾須古乃別君之